

河原口坊中遺跡

えびなるの弥生時代！

国教育総務課 ☎(2)3(5)4925



地面の下に埋まっていた大昔の人々の暮らしのあと——遺跡。河原口の相模川に沿った場所で大規模な遺跡が発見されたことを知っていますか？2000年前のものとは思えないほど良い状態で発見された出土品から、今回はその一部を温故館で展示します。私たちが住んでいる海老名で、太古の人々がどんな暮らしをしていたのか、実物を見て来ませんか。

河原口坊中遺跡

※現在、調査は終了しており発掘現場を見ることはできません



海を越えてやってきた!?

板状鉄斧

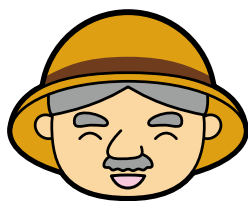
板状の鉄の「おの」。使った形跡はなく、どんな用途で使用されていたのかはまだはっきり分かっていません。

長さ20cmを超える鉄斧の出土は東日本初で、さびずに残っていた貴重品だよ。弥生時代には原料から鉄を生産する技術は日本にはなかったんだ。朝鮮半島から一体どのように海老名までもたらされたのかは、まだよく分かっていないんだよ。

2000年前もお餅つき!?

弥生人の臼と杵

この頃の臼は収穫した稲のもみがらをはすすための脱穀用として使われていました。



木で作られたものは、ふつう土の中では腐ってしまうんだ。河原口坊中遺跡は水分を多く含んだ泥で、まるで真空パックのように昔のものが埋まっていた。だから、ついこの間まで使っていたのかと思えるような、ほぼ完全な形で残っていたんだ。とっても貴重な例だよ。

作りかけの杵もあったから、農具を作る職人もいたんじゃないかな。田下駄や鋤、鋤のような、農作業に使う道具もたくさん見つかったから、当時の人々もお米を作っていたことが分かるね。

弥生人も相模川で魚を取っていた!?

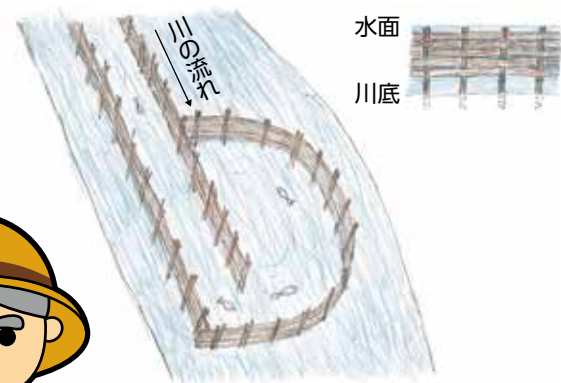
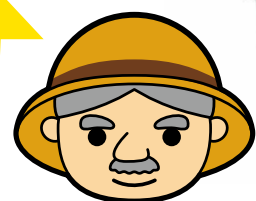
しがらみ状遺構

川の中に竹状の素材で組まれた魚を取るためのしかけです。河原口坊中遺跡からは2カ所発見されました。



川の流れに沿ったものと、川の幅の膨らんだ地形を使って袋状に仕掛けが作られたものがある、魚を誘い込んで捕まえたことが分かるよ。

他にも、木でできた魚取り網の枠の部分や、船をこぐオールのようなものも見つかるよ。当時の人々も、私たちと同じように魚が好きだったのかもしれないね。



▲河原口坊中のしがらみ状遺構イメージ図 (池田治氏提供)

河原口坊中遺跡って？

2000年以上前、日本が弥生時代と呼ばれていた頃から近世にわたる遺跡です。今までに7回にわたって調査が行われ、特に圏央道建設などのための事前調査として、平成18年から6年間発掘調査が相次いで行われました。

調査から分かったことは、弥生時代に大勢の人が住んでいたことと、約500棟もの大規模な集落があったこと。集落は南北400m×東西100mを超える大きさで、東京ドーム1個分ほどの広さです。



▲上空から見た弥生時代の集落跡(14×29m)



▲相模川に沿った河原口の大規模な遺跡

出土品も多く、弥生土器や石器をはじめ、鉄や銅製品、動物の骨や木で作られた器や道具、イネ・クルミなどの植物の種類など、大変多くの種類が発見されました。

この遺跡の特徴は、出土品が大量で、とても状態が良いということです。2000年前とほぼ同じ形状を保った出土品の数々から、当時の人々の暮らしを知る手がかりが多く見つかり、弥生時代の文化を伝える大変貴重な発見となっています。平成28年度には文化庁主催の展示会で紹介され全国5カ所を巡回し、10月19日(木)から地元海老名で初展示します(5頁)。